



ユネスコスクール便り

令和2年12月24日

No.99

大牟田市I社コスクール
担当者通信

つながりを大切にし、
かかわりを深める児童生徒の育成

みんなでつくるESDのカリキュラム



2学期が終わります。各学校では、2学期も充実したESDの実践を展開されたことと思います。さて、三学期になると、次年度の教育課程編成作業が始まります。本年度の実践の成果と課題を基に、以下の視点からESDのカリキュラムを見直していきましょう。

① 単元で身に付けさせたい資質能力は明確になっていますか？

→ ねらいが明確でないと、学習がただの活動で終わってしまいます。活動を通してどんな力を付けたいのかを明確にしましょう。ESDの学習を通して、持続可能な社会の創りに必要などんな力を身につけさせようとしているのか、そして、どのSDGsに結びつくのか明らかにしましょう。

② 子どもが主体となって学びを展開するストーリーができていますか？

→ 単元の中で、子どもが主人公となって学びを展開するストーリーを考えましょう。<社会とかかわり、自ら問いをもち課題を見出す→課題を解決し、よりよい社会について考えを深める→深まった考えを表現・発信する→学びを振り返る>そんな学びのストーリーマップを子供たちとともにつくっていきましょう。

③ 自己の変容を自覚できる振り返りが位置付けられていますか？

→ 学びの振り返りにあたり、様々な評価を生かしましょう。自己評価、先生からの評価、友達からの評価、地域の方からの評価等、様々な評価を工夫し、子どもが活動の価値を自覚し、自己の変容を実感するようにしましょう。

子供たちが、地域社会をつくる一員としての自覚をもち、持続可能な社会の創り手としての資質能力を身に付けていくことができるよう、ESDのカリキュラムをブラッシュアップしていきましょう！

ユネスコスクール・SDGs/ESD 子どもサミット が開催されます！

1月16日(土)に「ユネスコスクール・SDGs/ESD 子どもサミット」が開催され、手鎌小の「黒崎湧いね踊り」の実演も含め市内7校の発表があります。本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から無観客での開催となりますが、後日、各学校にDVDが配付されます。学校間交流や職員研修に活用しましょう。なお、今後、新型コロナウイルス感染症の状況により、変更される場合があります。

特色ある実践事例の紹介

「受けつごう、銀水太鼓」を通して 銀水小学校

5年生は、銀水小学校に伝わる「銀水太鼓」について調べる活動を行いました。4年生までの「銀水花いっぱい'絆'プロジェクト」の学習で、地域とのつながりを深める楽しさを学んでいます。そこで、6年生から銀水小学校の伝統である銀水太鼓を引き継ぎ、郷土愛を深めて地域を大切に、銀水小学校の最上級生になる決意を表すという明確な目標を掲げました。そして、自分たちの思いを伝える銀水太鼓の演奏を行う計画を立て、学習発表会で実践することができました。子供たちの思いは多くの人々を感動させ、地域の方も大変喜んでおられました。地域との絆を深め、住み続けられるまちづくりを目指し、今後も学校と地域の連携をさらに深めていきます。



銀水太鼓を披露する子どもたち



「防災・減災学習」の取組を通して 橋中学校

本校では昨年度より防災・減災学習に取り組んでいます。7月の豪雨では、学校横の白銀川が氾濫し、校舎周辺の道路は大人の膝くらいの高さまで増水しました。学校だけでなく生徒の自宅や通学路も被害を受け、災害の恐ろしさを実感した生徒も多かったようです。

2学期には、今回の豪雨の経験をもとに、3年生が校内ハザードマップ作りに取り組みました。授業では、大牟田市作成のハザードマップを活用しながら、生徒が把握している危険箇所を校区の地図に記入していきました。危険箇所を地図に示すことで、校区内の危険箇所を全員で確認できました。現在3年生3クラス分のハザードマップを一つに集約しています。今後の防災・減災の活動で活用していきます。



生徒が作成したハザードマップ

